

(電子メール施行)

農技第 1060 号

平成 30 年 4 月 27 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第 1 号 を下記のとおり発表します。防除指導等の参考としてご活用下さい。

タマネギ圃場で、べと病の二次感染株が増加傾向にあります。圃場での発生状況を観察し、薬剤防除を徹底するようご指導願います。

平成 30 年度 病虫害発生予察防除情報 第 1 号
タマネギべと病防除の徹底について

- | | |
|--------|--------------|
| 1 対象作物 | タマネギ (中晩生品種) |
| 2 病虫害名 | べと病 |
| 3 発生地域 | 県下全域 |

4 発生状況と今後の予想

平成 28 年春期に本病が多発し、土壌中のべと病菌の卵胞子密度が上がっており、本年 3 月には、早生圃場を中心に越年罹病株が低率ながら観察されていた。4 月 10 日の巡回調査では二次感染株は認められなかったが、4 月 27 日の巡回調査においては、発生圃場率 30.9% (平成 28 年 84.8%)、発病株率 0.26% (平成 28 年 4.34%) と急増している。

また、4 月 26 日付の 1 カ月予報によると、近畿地方の気温は高い確率が 70%、降水量は平年並で天気は数日の周期で変わると予想されていることから、ある程度の降水が見込まれる。以上のことから今後、二次感染が拡大すると考えられる。

5 本病の特徴について

本病は卵菌類に属するべと病菌による病害であり、前年秋の苗床や圃場に残った卵胞子から感染し、大部分が無病徴のまま越冬して春期に越年罹病株として発病する。栽培圃場においては、越年罹病株が感染源となって二次感染株が発生し、ひどい場合には葉が枯死する。発病は気温 15℃前後で高湿度状態 (曇雨天) が、1~2 日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

6 防除対策について

- (1) 圃場の発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギべと病対策マニュアル(技術者版)を活用して、薬剤防除を徹底すること。
- (2) 圃場内で発病が観察されなくても周辺に多発圃場がある場合は、必ず薬剤防除を実施する。
- (3) 薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。散布は降雨前に薬剤が乾くように余裕をもって行うことが望ましい。
- (4) 今後、早生品種の収穫時期になるが、極早生・早生品種及びネギ圃場で発生したべと病が、周辺の中生・晩生品種の感染源になるため、地域全体で防除対策に取り組むこと。



写真 二次感染株（葉身が黄化（左）、降雨後に分生胞子を形成（右）し、周辺株に二次感染する。）

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222